

平成27年度(基盤研究(S)) 研究概要(採択時)

【基盤研究(S)】

人文社会系(人文学)



研究課題名 仏教学新知識基盤の構築—次世代人文学の先進的モデルの提示

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

しもだ まさひろ
下田 正弘

研究課題番号: 15H05725 研究者番号: 50272448

研究分野: 仏教学、人文社会情報学

キーワード: TEI Guidelines、アジア古典研究、デジタル・ヒューマニティーズ

【研究の背景・目的】

デジタル技術を入文学分野に応用する人文情報学(Digital Humanities, DH)は、危機にある人文学の未来を開く新たな学問として過去20年あまり欧米において目覚ましい進歩を遂げた一方、アジアでは未だ十分に知られていない。日本でDHを深化させ世界に発信することは、今後日本がアジアにおける文化研究の中心地として東西文化研究の橋渡しをするための重要な鍵となる。本研究は、基盤研究A(2010-2013年度)の成果「インド学仏教学知識基盤」Research Base for Indian and Buddhist Studies(SAT-RBIB)に、大規模な新規国際プロジェクトを加えて高度学術知識ネットワークを作り、欧米で培われたテキスト構造化論TEI Guidelines(TEI-G)を基盤テキストに批判的に導入することで、方法的に精緻化されたデータベースNext-RBIBを構築する。紀元前より多様なアジア諸言語によって継承され、近代以降には主として欧米によって推進されてきた仏教学が今後依拠する知識基盤としてのNext-RBIBの提供は、西洋中心に進められてきた人文学の視座と方法を多様化し、次世代の世界の文化研究を先導する、日本の人文学の潜在能力の高さを実証する一例となるだろう。

【研究の方法】

本研究は、仏教学の知識基盤を各専門分野の研究手法の差異にそって個別に解析し、それらの結果全体をデジタル媒体上に統合的に再現し、世界的に利用可能な知識基盤として提供することをめざす。研究は、研究統括班、方法論研究班、国際アライアンス班、デジタル方法論研究班という四つのタスクに分けて遂行する。この過程において、アジアの伝統的人文学とデジタル媒体を前提とするDH双方の最先端の研究者と研究プロジェクトとの連携を実現し、持続的学術知識ネットワークを構築する。



【期待される成果と意義】

人文学の研究手法における伝統的暗黙知の明示化と知識の分野横断的共有という課題を、西洋人文学

におけるデジタル媒体上の研究方法論の精髓であるTEI-Gを手がかりとしつつ、仏教学をはじめとするアジア古典研究の方法的観点から解明し遂行するのが、本研究の基幹部分である。具体的課題は、仏教学と関連専門分野のあいだの研究手法の共有可能性と不可能性の明確化、TEI-Gに包摂される西洋文献中心の研究手法のアジア資料への適用可能性と不可能性の検討、Unicode UCS符号化提案を含む国際規格に対する長期的方針の策定、世界各地で進められる高度なDHプロジェクトとの同時的連携の実現、以上の諸課題全体を包摂した成果をオープンアクセスによるUniversal Serviceとして提供するための情報技術と研究方法の調整、である。これら諸課題を解決し、新学術知識基盤Next-RBIBを世界の学界に提供しうるなら、本研究は、グローバル化という美名のもと実質的に英語圏の世界標準に支配されがちな現代アカデミズムの状況を日本の人文学において変革し、洋の東西の研究方法を平等に視野に入れた、真の意味での世界標準を実現するものとなるだろう。本研究は、仏教知識基盤の国際的ネットワークの構築を通して、人文学の学術環境を、日本が先導して刷新するモデルを提供するものである。



【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- 1) M. Shimoda, Embracing a Distant View of the Digital Humanities, (Keynote Speech at Digital Humanities Conference 2012, Hamburg University)
<http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/DHI/DH2012KN>
- 2) K. Nagasaki, T. Tomabechi, M. Shimoda, Towards a Digital Research Environment for Buddhist Studies, *Literary and Linguistic Computing*, (2013) 28(2), Oxford University Press, pp. 296-300. (Open Access)

【研究期間と研究経費】

平成27年度—30年度 47,600千円

【ホームページ等】

<http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/>